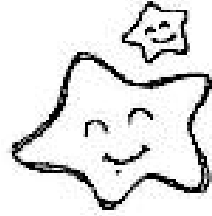


# QSK にぬふあぶし

No.300

ね  
子の方向の星



## 南風原町『広報はえばる』の取材を受けました【てるしのワークセンター】

南風原町の広報紙 2021年12月号の特集記事『人薬とともに』のなかで、就労支援事業所『てるしのワークセンター』も取材を受けました。きれいなカラー写真で表紙を飾っています。たくさんの笑顔あふれた素敵な記事になっているので、てるしにお立ち寄りの際にはぜひ手に取ってみてください。



### てるしのワークセンター

「画面上部写真左から右へ」  
てるしのワークセンターでは、障害者を持つ人の本心に寄り添いながら、社会に誇りあふれるサービスを行っています。毎年50人程度の利用者さんが在籍しています。パン作り、餅作り、園芸、軽作業を行っています。

#### 地域の人薬

捨てられる段ボールを使って、新しい作品を作るルポダーとブルーシールのコラボグッズが、てるしのワークセンターで手作業で作られているのを知っていますか。担当している新田さんは「丁寧に扱わないと段ボールが破れてしまうので、3年この仕事をしています。自分の作った物が売れると、とても嬉しい。頑張る気持ちも湧いてきます」と教えてくれました。

副産さんは元々、てるしのワークセンターでパン作りをしていましたが、以前パノンを扱う仕事をしていたと知った職員が伝説入力を依頼。今では、副産さんの得意分野が発揮され、本人もさらに楽しく仕事ができているそうです。

朝一でふくら焼き上げたパンは、利用者のみなさんが手作業で袋詰め・検品を行います。パンは朝が外で販売され、お客さんからは手頃で美味しいパンと大好評だそうです。役場での出張販売もあります。おすずめは暮らしです。



日頃は『てるしのパン工房』のパンをご愛顧いただき、ありがとうございます。  
このたび商品やサービス向上のため、お客様アンケートを実施しております。  
どうぞご協力をよろしくお願いいたします。(右のQRコードから)



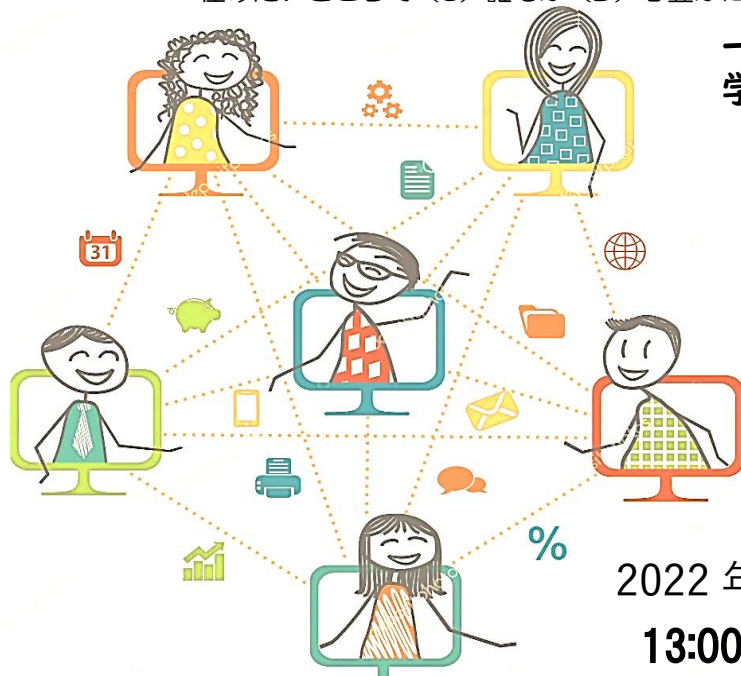
**【大会延期のお知らせ】** 下記、宮崎大会は、2月18日(金)の開催が予定されていましたが、九州・沖縄地区のコロナ感染拡大状況をかながみて、3月17日(木)へ延期が決まりました。今後の申込の詳細等は、宮崎県精神福祉連合会まで (0985-69-9208)

2021年度  
みんなねっと九州ブロック家族会  
精神保健福祉研修会

in 宮崎

# 笑顔 笑顔で SDGs

住みたいところで (S) 誰もが (D) 心豊かに生活しよう! (Gs)



一般・家族 1,000円  
学生・障がい当事者 無料



オンライン開催  
ハイブリッド形式

2022年 **3/17** (木)  
13:00~16:00 (受付 12:00)

記念講演

「笑いは人を元気にする」

東京医科大学 学生・職員健康サポートセンター  
センター長 市来 真彦氏



笑顔のフルートコンサート  
「フルート・ピアノデュオ」  
フルート くまがいがいか氏  
ピアノ ひだかつぐみ氏

## 沖福連職員研修に参加して

てるしの 上里早織

去った昨年12月17日、沖縄における精神保健福祉の開拓者、また精神家族会の先駆者として活動されていた初代会長・山里八重子さんを偲ぶ職員研修に参加した。

私は現在、沖福連の職員として働いているが、山里八重子さんの生前の活動を詳しく聞いたことがなかった。毎日タイムカードを押すときに、事務所に飾ってある山里八重子さんの笑顔を写真で拝見するだけである。今回の職員研修に参加するにあたっては、生前の山里八重子さんの活動秘話や、仕事に対して凄く怖い人なのか？ 厳しい人だったのか？ 写真同様に温厚な方なのか？ 興味津々である。



研修を通して、山里八重子さんの存在が見えた。精神障がい者家族会の先駆者としての活動、当事者やご家族のために県や各市町村など公的機関への請願活動を積極的に実行！ 相手が難しい方でも屈しない姿勢！ 家族会のため、自

分のお子さんのため、強い心を持つ人。

自分の時間も惜しみなく家族会のために活動する姿、私にはとてもできない行動に感銘を受けました。話の中で、家族会の皆さんがどんなに励まされ、信頼・尊敬を寄せてきたのかうかがえる。その反面、写真のままの温厚な優しいお母さんだったのだろうか～と想像すると嬉しくも感じた会でした。



## 沖福連職員研修を拝見して・・・

サポートセンターゆい 田崎菜美子

皆さんこんにちは。サポートセンターゆいの田崎と申します。

山里八重子さんがお亡くなりになられて20年が経つと聞きました。20年前私はまだ高校生で精神障がいという言葉も聞いた事があるけどよく分からないと思うくらいでした。このお仕事をさせて頂いてまだ5年目でまだまだ分からない事が多く、沖福連はとても大きな所で、創設者は山里八重子さんという方と聞いたことはありましたが、こういった活動をされておられたなどは分からず、今回沖福連の職員研修の録画動画を拝見させて頂きました。

動画を拝見して、家族会を立ち上げ、当事者の方、家族の方と話をして皆で同じ悩みに共感し、向き合い、お互いに話をしてお互いに元気をもらう、そういう家族会を立ち上げてくれた山里八重子さんはとてもチャレンジ精神豊かで、熱心な方で、人を惹きつけ、行動力もすごく皆に愛されていた方なんだと思いました。

私の身内も精神障がい者の方がいて、私はその頃まだ幼くその身内の方が亡くなって後、何年も経って実は精神障がいを患っていた、その家族、本人はとても辛い思いをたくさんしたと私が大人になって聞いた事がありました。私はその身内が大好きでよく会いたがっていましたが、あまり会うことが出来ず理由は当時知らなかったのですが、入院生活が長くて中々会えなかったのです。私の身内もその当時家族会に参加し、山里八重子さんに出会えていたら辛い思いも減り家族も仲良く暮らせていたんじゃないかと思ってしまいました。

今回山里八重子さんの事を知り、だれよりもいち早く共生社会を広めていった方だと思い、とても勉強になりました。今後、障がいがある人もない人も平等に地域で生活が送ることが出来るように、自分が出来る事を少しずつ行なっていきたいと思います。



サポートセンターゆい 伊藝直樹

今回、にぬふあぶしの記事を書くにあたって、うるま市社協の比嘉智子様から貴重なお話をいただきました。沖福連本部の増山さんと自分自身とのつながりも、今回知る事が出来ました。私は20年ほど前、栃木県に研修で行きました。比嘉智子さんがすべて手配してくれていて、着いてからはある人が空港から宿舍まで、帰りも空港まで送って下さいました。その際に「常に利用者目線だよ、目の前に困っている人がいれば力になりなさい」と言われたのが印象的です。増山さんのお母様でした。

人との繋がりを大切に下さい、また繋がった時は力になりなさい、印象的な言葉で今の自分にとって力になっています。増山さん、お母様、ありがとうございました。

# 「ゲーム障害」と自由と秩序の話

沖福連事務局長 増山幸司

約30年前に1作目がリリースされた『真・女神転生』というゲームがある。

このゲームシリーズが描いているのはイデオロギーの対立で、おおざっぱに言うと「自由」と「秩序」のどちらを選ぶかという話である。

「自由」の勢力はすべての人が何者にも縛られず、自分らしく生きられることを大事にしていて、見方を変えれば弱肉強食の能力主義ということでもある。誰もが自由意志にもとづいてその人らしさを追求できるが、明日も無事に生きられる保証はどこにもない。

一方の「秩序」を重んじる勢力は、システムによって高度に管理され、誰もが飢えず生活しやすく、イレギュラー=不安の少ない社会を目指している。人々は生存と生活を保障されている。ただしこちらでは、個人の自由や権利、その人らしさという価値観は二の次にされている。

主人公は、この二つの思想信条のあいだで常に選択を迫られる。

1作目でそれを問うたうえで、2作目ではまず「秩序」の勢力が支配権を得た場合の世界を描き、続く3作目では逆に「自由」のなか、己の力だけが物を言う世界を描いている。基本的には東京が舞台になっている。

この3作目、『真・女神転生3』を昨年未頃にあらためてプレイしなおしてみたが、さすがにグラフィックスには時代を感じるとしても、世界を構築する表現のセンスはいま見ても古ぼけておらず、相変わらずとても美しいゲームだと思った。

さて、「ゲーム障害」という言葉がある。WHOの作成する疾病分類に、2019年最新版から新しく追加された“病”である。

ゲームは、ものによっては報酬系ほうしゅうけいの神経回路を刺激するように工夫されているし、射幸しゃこう心を意図的に煽るデザインになっている場合もある。目が疲れるし、運動不足にもなる。熱中すれば昼夜逆転するし、家族のだんらんがおろそかにされるかも知れない。だから、自分自身で遊ぶ時間をコントロールすることが難しいタイプの人には、なにかしらのルールを話し合うことも必要だろうと感じる。

これについて、たとえば中国では国家としてネットゲームに対する規制を設けたそうだし、国内でも香川県では新しく対策条例を作るなどしている。彼らつまりゲームで言う「秩序」に傾いた勢力ということだ。娯楽を自由に楽しむ個人の権利よりも、社会の安定と生活の保障を重視しているわけである。

(次のページへ)

(前のページから)

ちなみに香川県の条例では、18歳未満の者については平日のゲームプレイを60分までとしていて、また義務教育のあいだは21時過ぎに遊んではならない。

思い出すことに、高橋名人という人がいる。

ファミコン時代に1秒間16連射<sup>れんしや</sup>で有名になり、「ゲームは1日1時間」を合言葉に、子どもたちだけでなく親からも支持を得たゲーム会社の社員である。

香川県の制定した条例に対して、我らが高橋名人もブログでコメントを発信していて、結論を要約すると次のようになる。「条例や法律が必要なほどの話ではなく、もしそうまでして縛るなら、子どもたちにそれ以外の遊ぶ場所を用意せよ」

最近では公園でボール遊びをすることも、たんに大声を張り上げることさえ自由にならない場合がままあって、かように子どもたちから居場所を削っておきながら、さらにゲームという遊びすらもまた奪おうとしている。これは正義だろうか？

高橋名人は、もとをたどれば香川県と同じこと(「ゲームは1日1時間まで」)を言っていたのだが、むしろ「自由」を応援する立場から、それを守るために、自己責任としてのセルフコントロールの大切さを説いているのだ。

ところで、『真・女神転生』というゲームシリーズ、敵と遭遇したときに「戦う」か「逃げる」かだけでなく、「話す」という選択肢も用意されている。対話を持ちかけて、上手くいけば目の前の争いを回避できるだけでなく、意気投合したあかつきには仲間として共闘することもできるようになる。イデオロギーの壁にあたったときには、まず対話と交渉の意思を持つことがサバイバルのカギなのである。

ちなみにぼくは子どもの頃から秩序よりも自由の派閥のほうにカッコよさを感じるが多かったけれど、いわばアンパンマンよりもバイキンマンに親しみを覚えるこの感じ、きっとわかってもらえるのではないのでしょうか？

◎編集後記◎

コロナのまん延防止重点措置が2/20まで延長となりましたね。まだまだ終わりの見えないトンネルの中にいるような感じですが、その中でも小さくてもできることを見つけて楽しく過ごしたいっ(^\_^)そんな気持ちです。奈

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会  
会長 山田 圭吾  
〒901-1104  
沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1  
てるしのワークセンター内  
電話 098-889-4011 FAX098-888-5655  
E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp  
発行：九州障害者定期刊行物協会  
〒812-0044  
福岡市博多区千代 4-29-24 三原第3ビル 3F  
電話 092-753-9722 FAX092-753-9723  
定価：10円(会費に含まれる)